医療を支える

学校法人 大阪滋慶学園

滋慶学園グループの学校法人大阪滋慶学園は、医療を中心とした現場で実践力を発揮できる人材育成を強化している。大阪医療技術学園専門学校、大阪ハイテクノロジー専門学校、大阪保健福祉専門学校、大阪医療福祉専門学校、大阪医療看護専門学校の5校が医療や介護福祉、スポーツなどの分野で活躍する即戦力を輩出してきた。この5校に続けとばかりに、2011年4月に開学し、国内初の医療安全管理学を学ぶ滋慶医療科学大学院大学からはこの3月、修士課程を終えた第一期の修了生が巣立つ。そして4月には、島根県出雲市の中心地であるJR出雲市駅前に、出雲医療看護専門学校が開校する。将来、地域での看護などを担う存在として期待される。次世代への基盤を着実に固めるために、大阪滋慶学園の挑戦は続く。

出雲医療看護専門学校が4月開校

3年制、4学科設置　島根県出雲市に

□■□

島根県出雲市に今年4月開校するのが出雲医療看護専門学校だ。地元の出雲市から積極的な誘致を受け、地域の看護師不足解消や若者層の地元定着、地域活性化などへの貢献が期待されている。

出雲医療看護専門学校は出雲市の玄関口となるJR出雲市駅の南口から徒歩3分に位置する。約5000平方㍍の敷地内に建設された4階建ての校舎では、山陰地域で医療や保健、福祉などの分野において社会貢献できる即戦力となる人材を養成する。専門学校の臨床工学技士学科はこの地方では初の設置となる。

設置されるのは看護学科（定員80人）、理学療法士学科（同40人）、臨床工学技士学科（同40人）、言語聴覚士学科（同40人）の4学科で、いずれも全日制の3年制。2年後、3学年がそろえば約600人がこの場所で学ぶことになる。学生を支える教職員は約35人。大半が島根県内に住む地元採用者となっている。

出雲市には島根大学医学部、島根県立大学看護学部などがそろう。将来的にも、山陰のみならず全国でも有数の「医療人材育成都市」としての基盤を確立できる可能性を秘めている。医療看護専門学校の開校は、地方で深刻化する看護や医療の人材不足や流出を食い止めるのに大きな意義がある。

今回の開校は、地元自治体や大学などの協力を得ながら、若手人材育成と地域貢献を両立させる好例としても注目度が高まりつつある。

出雲医療看護専門学校では学生一人ひとりが夢を実現し、医療分野で即戦力として活躍できるように万全の設備とサポート体制を整えている（出雲市の中心街に立地するキャンパス）

出雲医療看護専門学校　高田 晃平 学校長

出雲医療看護専門学校の初代学校長には出雲市出身で、島根大学医学部名誉教授の高田晃平氏が就く。出雲市で専門学校を開校する意義や地元への貢献、今後につながる取り組み姿勢などについて高田学校長に聞いた。

―学校の特徴は。

「出雲市などの協力を得て開校する。島根県からも多くの支援を受けた。そのため、地域への還元を意識していきたい。地方だと人材流出も顕著だし、それを食い止める役割を果たしたい。島根県立大学の看護教育が3年制から4年制に移行したため、人材不足の観点から『3年制の受け皿』にもなる。地域医療を守る、充実させることを学生にも積極的に伝えていきたい。看護学科と理学療法士学科は早い段階で定員に達した」

地域へ人材送り出す

―育成した人材が地元で働いてくれれば意義は大きいですね。

「地元の大学病院でも看護師が不足している現状で、早く卒業生がほしいという声をいただいている。島根全体でも中・小規模の病院で看護師不足が深刻であり、使命は重い。キャンパスは出雲市駅近くのため、学生の通学でも利点が大きい。地域でのイベントに参加する機会も出てくる。積極的に交流を図ってほしい」

―教育方針は。

「医療機関での実習以外に、人間としての教育は地域の方々の力にも支えられている。大阪滋慶学園として、出雲でも『実学教育』『人間教育』『国際教育』の三つの建学理念を掲げており、医療分野で即戦力のある人材を育てるために学生の〝医療人〟としての生きる力、働く力を伸ばしていきたい」

インタビュー

【出雲市 どんなところ？】

島根県東部に位置し、人口は約17万人。「縁結びの神様」として全国的に有名な出雲大社がある。湖面があかね色に染まる宍道湖の夕日や、麺の色が濃い出雲そばも人気。

医療安全の担い手巣立つ

第一期生に修士号

滋慶医療科学大学院大学　初の授与式

学位記授与式には多くの来賓が出席し、修士号の授与を祝福した（戴帽しているのが修了生と学校関係者）

2011年4月に開校した滋慶医療科学大学院大学が24日、第一期生の学位記授与式を迎えた。修士課程を終えた修了生20人に「医療安全管理学」の修士号が授与された。医療現場の中核を担う平均40代半ばの現役看護師らが、平日の夕方や週末などに本業の傍ら2年間の授業と研究指導を受け、修士の学位取得を目指してきた。

医療情報学が専門の医療管理学研究科長の武田裕教授（大阪大学名誉教授）は「医療安全を系統的に教えるのは従来難しかった。大学院だからこそ、深くかつ職種を超えて横断的にも学ぶことができた。修了生が医療現場に戻った時に大きな自信になるはずだ」と修了生を送り出した今、こう力を込める。

大阪滋慶学園の各校では「実践力」を養う教育に重点が置かれている。滋慶医療科学大学院大学も「医療安全のエキスパート」を育てることに力を入れてきた。学生は各自が独自性ある研究テーマに向き合った。例えば、医療現場の安全文化度を測定するために、データ収集をしたうえで統計解析をしたという。問題意識を明確にしながら深く掘り下げる研究は、職場に戻ったとき、リーダーシップの発揮などの面で、生きてくるだろう。

修了生代表の大西アイ子さん（前列左）

第一期生は医師や看護師をはじめ、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、診療情報管理士など、幅広い職種からそれぞれスキルアップを目指す学生が集まった。その修了生らの意向で、学位記授与式の後に謝恩会を開きたいという申し出があったという。武田教授も「ありがたい話。みんな仕事の後に駆け付けて、平日は21時30分まで授業を受けていた。修士論文の作成にあたっては、指導教授がついているが、それぞれに苦労があったと思う。それが報われた思いだ」と目を細めた。

すでに「医療の質・安全学会」で論文発表も行っている。今後は学会・学会誌での発表を積極化する方針だ。そのうえで、まずは日本語での発表にチャレンジを求め、いずれ学生には国際学会での発表にも前向きに挑戦させたい考えだ。

滋慶医療科学大学院大学の強みは充実した教授陣。今後はさらに質を高めるための講師招聘（しょうへい）にも取り組む。一方で、博士課程設置に向けたスケジュールも具体化する。武田教授は「13年度中に申請準備をし、15年度の開設を目指したい」と話す。すべては医療安全の最前線を担う人材が、各自の持ち場で成果を発揮するためだ。

■2012年度修士学位論文一覧

1	国内医療事故・事故調査報告書の収集・検討とその考察
2	院内医療メディエーターによる対話促進手法の構造　～コンフリクトを院内医療メディエーションによって合意形成に導いた事例の分析～
3	近畿地区の中小規模医療機関における5S活動の実態及び推進要因に関する研究
4	心拍監視モニタアラーム誤作動の低減化と方策の提言のための研究
5	遠心ポンプ拍動流体外循環による生理学的危険因子の予防と医工学的安全性評価
6	臨床検査採血の現状に関する調査研究　～大阪府下12病院質問紙調査を中心に～
7	看護労働の生理心理的負担の評価に関する研究
8	医療機器安全管理のモデル構築に関する研究
9	看護師等による医療事故の根本原因分析とその対策　～刑事訴訟事例を題材として～
10	電気メス熱傷事故発生メカニズムの解明　～有限要素法による熱傷発生最小電流密度の研究～
11	経営形態の変更が病院経営に与える影響
12	人間の情報処理特性を踏まえた安全行動を規定する要因に関する調査研究 ～エラーの検出に関わる要因の検討～
13	特別養護老人ホームにおける転倒・転落での有害事象（骨折）に対する予防アセスメントツールの有用性及び回避策のコスト評価
14	臨床工学技士の手術領域における業務成果に関する研究
15	臍（へそ）の緒の取扱に関するシステムの構築　－母子の絆の視点から－
16	看護学生が臨地実習でインシデントを起こした後の教育的なかかわりに関する研究
17	病院看護師におけるWork Life Balanceから見た子育て支援に関する研究～A病院の質問紙調査を中心に～
18	電子カルテ記載の量・質的分析による外来医療クラーク導入効果の評価
19	近畿圏の救命救急センターICUにおける患者安全風土の醸成に関する基礎的研究　～医療職・職員が認識するICUの組織・チーム風土、チームの協働とそれらの関連について～
20	インシデントを経験した看護学生へのデブリーフィングの教育的意味に関する研究　～リフレクションの枠組みを活用して～

学んだこと現場で生かす

大学院大学一期生が語る

医療管理学研究科
医療安全管理学専攻
篠原 智誉さん

私は臨床工学技士として、手術などに用いる生命維持管理装置」をはじめとする医療機器の操作、それらの保守点検といった業務をしています。本学では自らが病院で取り扱う医療機器の安全性検証法などを深く知りたいと思い、臨床業務を続けながら2年間学びました。

振り返れば、本学には想像以上に広いフィールドがあり、「医療安全」に関してここまで多角的なアプローチで学べる場所はこの大学院をおいて他にないと感じました。医師、看護師をはじめ他職種の同期学生の勉学への思いの深さをまざまざと感じました。今後自分の研究内容だけでなく、本学で得た知識を臨床現場に存分に応用し、安全文化の発展に尽力していこうと考えています。

医療管理学研究科
医療安全管理学専攻
大西 アイ子さん

私は、ずっと臨床の実践現場で働いてきました。臨床現場は、再現性や公表される事例は、このような現場の人たちの努力ではなく、起こってしまった不幸な出来事は事故につながらないよう工夫しています。

実際に報告される事例や公表される事例は、このような現場の人たちの努力ではなく、起こってしまった不幸な出来事は事故につながらないよう工夫しています。

実際に報告される事例や公表される事例は、このような現場の人たちの努力ではなく、起こってしまった不幸な出来事は事故につながらないよう工夫しています。

重要なテーマ得た

実際に報告される事例や公表される事例は、このような現場の人たちの努力ではなく、起こってしまった不幸な出来事は事故につながらないよう工夫しています。

実際に報告される事例や公表される事例は、このような現場の人たちの努力ではなく、起こってしまった不幸な出来事は事故につながらないよう工夫しています。

実際に報告される事例や公表される事例は、このような現場の人たちの努力ではなく、起こってしまった不幸な出来事は事故につながらないよう工夫しています。

知識の応用目指す

全性検証法などを深く知りたいと思い、臨床業務を続けながら2年間学びました。

振り返れば、本学には想像以上に広いフィールドがあり、「医療安全」に関してここまで多角的なアプローチで学べる場所はこの大学院をおいて他にないと感じました。医師、看護師をはじめ他職種の同期学生の勉学への思いの深さをまざまざと感じました。今後自分の研究内容だけでなく、本学で得た知識を臨床現場に存分に応用し、安全文化の発展に尽力していこうと考えています。

高度専門職業人を養成

セミナー・講演会開催通じ

2012年度に創立25周年を迎えた大阪滋慶学園。臨床検査技師、臨床工学技士、看護師など卒業生は約2万7000人にのぼる。そういった中、卒業生、医療・福祉業界の関係者を対象にしたセミナーや講演会を精力的に開催、高度専門職業人養成機関として、その一翼を担っている。

13年2月2日、大阪滋慶合同校舎（大阪市淀川区）で行われた医療経営管理セミナーには現役の看護師ら100人以上が集まった。講師は坂本すが日本看護協会会長で、「これからのチーム医療における看護の役割と人材」をテーマに約2時間熱弁をふるった。

坂本会長は、「少子高齢多死社会の到来で、在宅看護の需要が大きくなるばかり。だが、少子化により看護学生の確保が難しくなっている」と問題提起。その一方で、団塊の世代が75歳以上になる25年を目前に控え、「今後、我々は国民のニーズにどのように応えるのか。医療提供体制の変革が本当に迫られている」と強調した。そして、これからの看護師には〝チーム医療〟のキーパソンとしての役割、医療と暮らしの両面からの患者支援などが求められるので、頑張ってほしい」とエールを送ると同時に、「協会会長として労働環境の改善にも一層取り組んでいきたい」と決意を表明した。講演後は、会場から多数の質問や感想が寄せられ、貴重な情報交換の場となった。

坂本すが日本看護協会会長（中央）を講師に招いたセミナー（2月2日）

〝就活〟も強力サポート

学外も対象　合同企業説明会開き

今年の「就職フェア」は5月13日に開催予定（昨年の会場）

大阪滋慶学園は、グループ7校の学生を主な対象にした合同企業説明会「就職フェア」を、毎年5月に大阪城ホールで開いている。200近くの病院や福祉施設が参画する。大阪滋慶学園以外の学生も参加可能で、例年約3000人の参加がある。学生にとっても多くの採用情報が得られ、病院や福祉施設でどんな人材が求められているかを自ら知れる大切な一日といえる。

就職フェアは、学生以外に保護者や医療・福祉業界・高校・大学の関係者が参加することが大きな特徴。「保護者就職説明会」や「高校教員向けのセミナー」なども実施している。

大阪府看護協会の前会長で大阪保健福祉専門学校の豊田百合子副学校長は「これからはチーム医療の時代。そしてそれらをマネジメントする医療現場が求められる。医療・福祉のすべての学科がそろった大阪滋慶学園ではそれが可能。学生には横の連携を意識して行動してほしい」とする。

就職フェアについて、豊田副学校長は「学生自ら積極的に足を運んで、医療職場がどういうものか探し求めてほしい」と話す。さらに、3年間の専門学校のキャリアの中で、幅広い視野をもって病院や福祉施設を見てもらいたい考え。病院施設側も「積極的な学生がいれば、施設側の動きも活発になる」（豊田副学校長）と話しており、〝ウインーウイン〟の関係構築も顕著になりそうだ。

開校にあたって　各氏からメッセージ

出雲市長
長岡 秀人氏

夢の実現心から期待

◎…学校法人大阪滋慶学園「出雲医療看護専門学校」の開校を心からお祝い申しあげます。そして、医療分野での活躍をめざす多くの学生の皆さんが、この出雲市で学んでいただくことを大変うれしく思います。

◎…本市は、豊かな自然と歴史、バランスの取れた産業構造や厚い人情、そして「神話のふるさと」や「縁結び」など、私たちが全国に誇れる地域資源がいっぱいです。本市では、昨年末に新たな出雲の國づくり計画「出雲未来図」を策定し、市の将来像を「げんき、やさしさ、しあわせあふれる縁結びのまち出雲」と定め、市民が力を合わせ新たなまちづくりに取り組もうとしています。

◎…本市は県内でも有数の医療・教育機関を有し、臨床実習などにご協力いただくことになっています。皆さんには、この恵まれた環境でしっかりと医療を学んでいただきますとともに、本市のまちづくりにも積極的な参加をお願いします。そして、充実した学生生活を過ごしていただき、それぞれの夢を実現されることを心から期待しています。

島根大学学長
小林 祥泰氏

全学部そろって協力

◎…出雲医療看護専門学校開校おめでとうございます。島根大学医学部附属病院の新病棟完成後も中央診療棟や既設病棟の改修工事が続いていましたがこの3月にすべて完成し、ロボット手術なども含めた最先端機能と画期的病院管理システム、高度教育機能などを持つ高機能病院に生まれ変わりました。

◎…日本トップクラスのシミュレータセンターを院内に開設、MEセンターもICUに隣接して設置し、スタッフも充実しています。看護専門外来も増やし看護教育もあらゆる面で強化しました。リハビリテーションセンターもすべての分野に対応しています。院内保育所の大幅拡充などワークライフバランス向上にも努めています。

◎…講義や実習面で島根大学として、医学部だけでなく全学部そろって協力させて頂いていますが、是非、卒業後も一人前の医療人として島根県で活躍してもらいたいと思います。

島根大学医学部附属病院長
井川 幹夫氏

信頼される医療人に

◎…島根大学医学部附属病院では2011年6月に新病棟がオープンし、12年10月には救命救急センターに指定され、今年3月に既設病棟、外来・中央診療棟の改修が完了して病院機能は大幅に向上しています。特にがん医療は化学療法施設の充実、高度な放射線治療の実施、ロボット手術支援システム「ダ・ヴィンチ」による低侵襲手術などにより高度化しています。さらに教育環境の整備、シミュレーション機器の拡充により教育機能も向上していますので出雲医療看護専門学校の学生さんの実習などで本院を大いに活用していただく予定です。

◎…ご存じのように看護師、理学療法士、臨床工学技士、言語聴覚士はチーム医療で重要な役割を果たす職種で、本院においても各スタッフが、それぞれ専門性を発揮して生き生きと活動しています。本院としても各種資格取得、社会人大学院への進学を支援するなど多様なキャリアプランに対応しています。患者さんを幸せにすることを第一の目標として、充実した教育環境の下で患者さんに信頼される医療人となられることを期待しております。